

平成25年度第1回 芦屋市立美術博物館協議会 会議要旨

日 時	平成25年9月30日（月）16:00～17:30
場 所	教育委員会室
出席者	<p>会長 蓑 豊</p> <p>副会長 齊木 崇人</p> <p>委員 井上 正三</p> <p>委員 有馬 直美</p> <p>委員 仲庭 太栄子</p> <p>委員 野島 さゆり</p> <p>委員 野村 知巨</p> <p>委員 山口 志郎</p> <p>教育長 福岡 憲助</p> <p>美術博物館副館長 石井 茂</p> <p>（事務局）</p> <p>社会教育部長 中村 尚代</p> <p>生涯学習課長 長岡 一美</p> <p>生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋</p> <p>生涯学習課文化財係員 小山 忠寛</p>
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 議題・報告
 - ①平成26年度以降の芦屋市立美術博物館に係る指定管理者の選定結果報告について
 - ②平成25年度の芦屋市立美術博物館における事業内容と利用状況について
 - ③今後の予定について
 - ④その他

2 提出資料

- 資料1 芦屋市立美術博物館の指定管理者の指定について
- 資料2 小学館集英社プロダクション共同体事業実施計画書
- 資料3 芦屋市立美術博物館動員数・平成25年度展覧会実施状況・事業一覧・アンケート結果

3 会議の成立

委員定数8人中、8人の委員が出席しており、芦屋市立美術博物館条例施行規則第11条第2項により会議は成立した。

4 審議内容

(委員長)

それでは、ただ今から議事に入ります。

はじめにこの協議会について公開又は非公開にするかについてですが、芦屋市情報公開条例第19条の規定に基づき公開を原則にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

非公開とすることができる場合は、非公開情報が含まれる場合や、公開することにより公正または円滑な審議ができない場合に限られます。

公開により皆様の発言が制約されるものではありませんので、率直なご発言をお願いします。

<全委員，異議なし>

(委員長)

その他会議の運営についてご意見、ご要望等はありませんか。

<全委員，意見等なし>

(委員長)

それでは、議題①の『平成26年度以降の芦屋市立美術博物館に係る指定管理者の選定結果報告について』に入ります。

事務局の説明をお願いします。

(事務局：長岡)

資料1をご覧ください説明します。これまでは3年間ですが、今回は平成26年度から5年間ということで、市としての指定管理者の候補者を選定しました。現在は、小学館集英社プロダクション、グローバルコミュニティ、芦屋ミュージアムマネージメント（AMM）の3社からなるグループが指定管理者です。しかし、今回は、市民団体であるAMMが抜けた形での2社の共同体として、小学館集英社プロダクション共同体という名称でご応募いただき、選定委員会で選定され、候補者として議会の方へ議案を提出しました。

応募は、小学館集英社プロダクション共同体と、管財ファシリティ・癒しの森共同企業体の2社でした。

選定委員会を3回開催し、その結果、小学館集英社プロダクション共同体の方が選定され、議会の方へ上程しました。9月24日に議会で議決されました。契約は来年度ということになります。

選定委員会の面接審査での質問としては、現在の状況がどうか、市民団体のAMMが抜けることについて等、委員からいろいろ質問がありました。企業だけで、市民の、市民による、市民のための美術博物館ができるのかといった質問があったのですけれども、そこは3年間の実績や、AMMも抜けたから

とって協力しないというわけではなく、指定管理者としては抜けるけれども、何らかの形で引き続き協力していきますということをおっしゃっていますし、小学館集英社プロダクションの方も3年間で他の市民団体との顔つなぎができていくということで、これまでと同じようにやっていけますということをおっしゃっていますので、議会でそのように説明し、結果的には平成26年からも頑張っていたらということになりました。

次に事業実施計画書（資料2）は、応募書類に掲げられた今後の5年間の展示や教育事業、講演会のおおまかな計画内容となっています。また、ご覧いただきまして、次回にでもご意見をいただけるようでしたらお願いしたいと思います。

以上の通り、平成26年4月1日から平成31年3月31日まで、美術博物館の指定管理者として小学館集英社プロダクション共同体に決まったことを報告します。

（養会長）

どうもありがとうございました。ただ今の事務局の説明について、何かご意見、ご質問などありませんか。

<全委員、意見等なし>

（養会長）

なければ、続きまして、議題②の『平成25年度の芦屋市立美術博物館における事業内容と利用状況』について説明をお願いします。

（石井副館長）

資料3に基づき説明させていただきます。

動員数について、2011年は21,511名、2012年は27,540人、2013年は途中ですが、9月29日現在の累計が18,515人、過去の実績に合わせて出した今後の予測を踏まえて3万人を超えた数字、30,915名を今期の最終的な動員数と考えています。

10月5日、6日にアートバザールがあり、毎年2日間で2,500名ぐらい来ていただいています。現在、天気予報はあまりよくありませんが、庭ですと雨が降りますと中止となります。どうにか曇りで実施できれば、最終的にはその人数で31,000～33,500名ぐらいの予定人数で考えています。

平成25年度の展覧会実施状況について、3月20日～5月6日まで、東京の美術館の方からお借りして浮世絵の展覧会を開催し、合計で11,118人ということになっています。有料観覧者数合計が4,885名、無料観覧者数、招待者の合計が1,916名、その他イベントや講演会、その他で4,317名、合計11,118名です。

5月18日から6月30日まで、コレクション版画展ということで開催し、3,061名となっています。有料観覧者数が732名、無料観覧者数が916名、その他が1,364名です。

7月15日から8月18日まで夏休み、お子様向けも考えて、「学習雑誌にみるこどもの歴史」展ということで、小学館の協力を得て、学習雑誌と付録を展示しました。合計4,045名、有料観覧者数977名、無料観覧者数1,065名、その他2,003名です。

現在、8月31日からアートピクニックを開催しています。今年は3回目ということで、「マイホー

ム ユアホーム」と題しています。この展覧会が昨日（9月29日）までの数字で合計2,415名となっています。10月6日までやっていますので、3,000名弱までいくと思います。

次が平成25年度の入館者数の月別の内訳で、有料観覧者数が6,227名、無料観覧者数が4,263名、その他が8,025名、現在、合計18,515名ということになっています。

次に事業一覧として講演会などを挙げていますが、現在5,148名の参加となっています。

次にアンケート結果ですが、今はすべての方にお渡ししています。浮世絵展のアンケートでは、来館回数で「はじめて」という割合が57%となっています。年齢では40歳代～70歳代の割合が大きいです（全体の64%）。

住所は市内の方が46%ということで、市内の方にはかなり多く来ていただきました。その前年度でみると30数%だったのですが、この展覧会では半分ぐらいの方が市内から来ていただいているという結果が出ています。芦屋市以外の方の分布については、神戸、西宮、尼崎、それと大阪府の大阪市、東大阪市のエリアからかなりの方が来ていただいています。

ニュースソースでは、広報あしやが非常に大きな影響力があります。病院やタクシー、芦屋神社等にもポスターやチラシを置いてもらっています。あとは地域を回っているいろいろなお店にポスターを置いてもらっています。

展示内容の課題としては、注意はしているのですが、「字が小さい」や「順路が分かりにくい」、その辺が若干厳しいご指摘があります。この辺は注意してやっていきたいと考えています。

ご意見については、浮世絵展では「照明が暗すぎる」という意見がありましたが、これは所有者の方の貸し出し条件でしたので仕方がないというものの、確かに見づらい点はあったと思います。

学習雑誌展の関係では、来館回数が初めての方が61%と多くなっています。住所は残念ながら市内の方が33%となっています。市内以外では、神戸、西宮、尼崎、大阪、東大阪が中心となっています。京都が多いのは京都新聞に載ったことも影響があったと考えられます。小学館の週刊ポストのグラビアに3ページほど載ったのですが、あまり効果はありませんでした。

展示内容では、やはり順路で若干不満が認められます。意見では「文字が小さい」や「小学館の1社だけの展示になっている」などの内容がありました。

アンケート調査については今後も実施し、変えるべき点は早めに変えていきたいと思っています。皆さんいろいろ書いていただいていますので、参考にして良い展覧会にしたいと思っています。

私の方からは以上です。

（藁会長）

ありがとうございました。今の指定管理者は非常に頑張っていると思います。一番効くのは、なるべくたくさんチラシを作って、それを例えば入館者が多い展覧会に置いてもらうと効果があります。そういうところにぜひ置いてもらうことが大事だと思います。もちろんポスターも大事ですが、それ以上にチラシも意外に効くので、学芸員の知り合いのところに置いてもらうと良いと思いました。どうもありがとうございました。

（石井副館長）

今、教育委員会に協力いただいて、小・中学校の全児童・生徒に渡るようにしています。

（藁会長）

ただ今の説明でご意見，ご質問等ありませんか。

(齊木副会長)

来館者の中で、「その他」は具体的にどのような人になりますか。

(石井副館長)

これは，講義室や体験学習室で講演会や各種事業に参加された方が入っています。非常に大きいのは，年に2回開催されるアートバザールに参加した方の人数です。

(齊木副会長)

そういう場面で，これからの催しものであるとか，次の企画などを皆さんに紹介していくというのは大変大切です。来館者の約2分の1の方が「その他」のところで参加していますので，来館した方がそういう催しに参加すると理解できます。

せっかく関心を持っていただけるのですから，しっかり掴んで複数回来て頂ける人を育てるようにしていただきたいと思います。

(養会長)

そうですね。それはぜひやってほしいです。1回来たら，必ず掴んでまた来てもらえるように。なかなか来てもらえませんかから，美術博物館に行くのは距離的に大変ですから，それだけ苦勞して来たわけですから。それとやはり親切に館員が対応する。また来たいなという気持ちを起こさせることも大事だと思います。

(齊木副会長)

それともう一つ，アンケートでは「どなたと一緒に来ましたか」という設問が大切です。実は美術館では，お父さん，お母さんと子ども，おじいちゃん，おばあちゃんと孫という形で来館されています。そこで良い学習をしていただくと，将来に来ていただく方々を育てます。このような来館者がいるはずですので，できましたらこのような質問を設けていただきたいと思います。

(石井副館長)

ぜひ，そうさせていただきます。

(養会長)

それから，やはりせっかく美術博物館まで足をのばすわけですから，もう少し市の方も協力してミュージアムショップの充実を考えてほしいと思います。意外に効果が大きいですので，特に絵葉書の利益率は普通の物よりもすごく高い。やはり来たら何か買って行く。ファイルや絵葉書はすごく人気があります。もっともっと充実したら意外に利益が上がる。それも少しは考えてほしいと思います。

次に今後の予定について説明をお願いします。

(事務局：長岡)

これから先，平成25年度が半年残っていますので，その事業の予定を紹介させていただき，ご意見

等をいただきたいと思います。

(石井副館長)

ゲンビ展が10月19日から始まります。今回、アサヒビール助成金100万円、自治総合センターから500万円の助成を受けている。その費用を使えるということで、今回は美術博物館の外からいろいろ借りてきて大規模なものができるので、ぜひご覧いただきたいと思います。

それと、今回、助成を受けて普段より広告にも費用が使えますので、阪神沿線に思い切ってポスターを貼ることを計画しています。梅田や三宮に出したいと思っています。それと先ほどアンケートにあった西宮や尼崎にも置けるような形で、一回駅に貼ることがどれだけの効果があるのか見てみたいと考えています。

それと初めてですが、朝日新聞に協力をいただくことになり、新聞広告を出していただくことになっています。このように助成もしていただいていますので、良い結果が出るように頑張っていきたいと思っています。その後は、芦屋市展が12月7日からスタートします。次はコレクション展、その他に造型教育展となっています。

来年度からも指定管理者に指定されましたので、4月からは浮世絵をしていきたいと思っています。寄託資料の片岡家の浮世絵が300点ありますので、それを用いて120～150点出していきたいと思っています。また、地域の方から北斎漫画をお借りする予定です。あとは計画書に沿って、この後詰めていきながら実施していきたいと思っています。

(養会長)

北斎漫画はいろんな絵に、特にヨーロッパの絵に影響を与えています。、はっきり影響が出ている有名な絵がありますので、写真でいいですから、ぜひ並べていただきたいと思います。ただ漫画だけ並べても面白くないです。

それと注文なのですが、コレクション展というタイトルだけはやめてほしい。これでは誰も来ない。何か目立つ絵を作家の名前や何か工夫しないと、コレクション展では本当に来ない。兵庫県立美術館もこれをやめている。コレクション展、常設展、このタイトルだけはやめてほしい。何の魅力もないし、またどうせ同じだというイメージの方が強い。何か目立つ作品を使ったタイトルにした方が良い。常に違うタイトルにしてほしい。そうすると何か違った企画展、新しい企画展を見れるという思いの方が強くなります。それはぜひ言っておきたいと思っています。

(石井副館長)

参考にさせていただきます。ありがとうございます。

(養会長)

他に何かご意見等はありませんか。

なければ、「その他」で何かありませんか。

芦屋市は人口10万人ですから、頑張ってください。せっかくですから、もっともっと神戸からも、大阪からも来るように、ちょうど真ん中ですので、まだまだ努力してほしい。大阪にもう少しチラシを置くようにしてほしい。その点は学芸員もいろいろなコネクションがあるわけですから、友達に頼むなど、学芸員のつながりは大きいので、チラシを置いてもらえるような努力をすれば、効果はあると

思います。いい展示をせっかくするので、たくさんの人に見てもらえるような努力をしなければなりません。ただ単に展覧会をやったといった結果を出すだけではなくて、お客さんが来て本当の良い結果が出ます。もう少し芦屋の人が来るような努力をしないともったいない。やはり長く続くように地元の人が来ないと意味はないと思います。あまり外の客を対象にするのではなくて、やはり芦屋に住んでいる地元の人に、非常にグローバルな方も多いわけですから、来てもらえるように努力しましょう。他に何かありませんか。

(井上委員)

まず、AMMについて、9月議会で相当論議されているようですが、3社の内、1社が抜けたということで、市民参加がない、企業ばかりということになります。それについて、事業計画をみますと、AMMがされている事業がかなりありますが、これを今後も踏襲されるのか、なぜ3社ではないのかということについて教えてください。

(事務局：長岡)

市議会でも同様のことについて質問がありました。その中で説明したのは、今、小学館集英社プロダクションが代表ですが、当初同じ形でどうですかという話はもちろんされたということです。ただ、5年間ということもありまして、AMMの方でいろいろご相談された中で次の5年間に指定管理者の一員として加わるのは無理だということで、最終的にはお断りがあったということです。実際の内容としては、年齢的なことなどの事情から、今までと同じようにこれからの5年間にけるかということについてはちょっと難しいと判断されたようです。ただし、今後も協力していただけることについては確認しています。

それと指定管理ということで共同体の中に入るということは、一定、そのリスク面も背負わないといけません。リスクも割合は別として、大きな企業と市民団体ですから、その割合は違っても、責任という問題、リスクを負うということはあるのだけれども、今のAMMではそこが難しいという結論で、結局、指定管理者として一員となることは難しいので辞退しますと、お話があったということです。

(井上委員)

もう1点よろしいでしょうか。この協議会の第1回目、第2回目の会議の中で、美術博物館の基本的な方針として、どのような姿であるべきかという論議がありました。その中に前衛のカラーの強い美術博物館について論議がありました。今回、見てみますと、2011年、2012年、2013年の動員数を見ると、例えば、2011年では「津高 和一」展、2012年では「具体その他」展、2013年では「ゲンビ」展があつて、実際には相当のウェイトが割かれている。そういった大きな流れ、そういったものを感じます。その中で動員数を見てみますと、2011年「津高 和一」展では60人/日ほど、2012年「具体その他」展では60～70人/日、ゲンビ展についても予想人数ですが、100人以下となっています。

私たちはこれについてももう少し何とかならないかという気持ちと、もう一つは美術博物館運営基本方針の中には、冒頭に市立美術博物館は創立以来、基本方針として小出権重、具体美術協会の功績の継承を掲げてきたが、芦屋市立美術博物館運営委員会からの答申を受け、特に具体美術、現代美術の偏りを見直すとはっきり書いてあります。市展または童美展の見直しの中でも、市展については、具体、抽象美術に偏った方向を改めるとはっきり書いてある。こういった大きな基本方針がまだまったく変わって

いないのです。平成14年の基本方針のままです。これは美術博物館の基本であると思います。この基本方針をもって、実際にこうして眺めて見ますと、やはり基本方針のとおりには拭えていません。

実際には、私は好きですから別に前衛について批判しているわけではありませんが、実際にはそういった基本方針を未だ通しきれていない現状があるのではないのでしょうか。

今後の事業計画も大まかに見てみますと、やはり具体や抽象芸術からは抜けれていない。やはり主体はそこにあると感じます。その点は私たち市民としてもどうなのだろう。そのことの反省を今まで繰り返してきたのではないかという気持ちがあって、そこにひっかかりがあるままなのです。

この点についてどうお考えですか。

(養会長)

今、世界で具体は大変な勢いでブームを起こしている。特にニューヨークのグッゲンハイム美術館で展覧会をやって以来、もういろいろなところから貸してください、という状況です。

せっかく芦屋市立美術博物館が、素晴らしいコレクションを持っているわけですから、年に1回や2回はぜひ展覧会をやってほしいです。世界から来た人が願っていて、私は美術博物館をローカルな美術館にはしたくないと思っています。

指定管理になって、小学館集英社プロダクション、芦屋ミュージアム・マネージメント、グローバルコミュニティグループが頑張っているので、ぜひこれは続けてほしいし、美術博物館が世界に発信する最高のものだと思います。この美術博物館がローカルではなくて、世界の美術博物館になると、市民もプライドをもつ。具体は芦屋の宝ですから、それをなくすような美術博物館になってほしくないです。

他に何かありますか。

(齊木副会長)

第1回目の会でありましたけれども、今、これだけ多様な情報が私たちのところにやってくる。そして、その中で何を確実に私たちはキャッチしたらいいのかということに戸惑いながら時代が動いている。私は養会長の考えとも重なるかもしれませんが、やはり具体を越えたいというか、具体ではなくて他のものもあるということを芦屋の方々がおっしゃったということは、新しい多様性をそこに求められたのだと理解していました。今、やはり具体に頼った美術博物館ではなくて、具体以外のこともこんなにやっているとすることをしっかり主張する。つまり、具体が世界に通用するレベルを持っているわけですから、それ以上のチャレンジを私たちはしていきますといういい試金石です。芦屋には、財産としてあるわけです。ですから私はそれを正しく評価することには、外圧というか、外の力を十分に使うということはチャンスであると思います。世界が評価している。ただし、それ以上のことも芦屋の中から出します、というチャレンジがまさにできる時がきているのではないかと、というふうに期待します。もう少し具体の具体化ではなくて、ちょっと相對、具体的なお話を申し上げますと、このようなことに気づきました。芦屋に住んでいる皆さん学芸員が自信をもって、自分達の財産を外にアピールしなければいけないし、それから具体以外のいろいろな企画においても学芸員の方々がギャラリートークを何度かしているんですが、ギャラリートークこそテーマをしっかりと出して、皆さんの気持ちをぐっとつかむ。連続してアピールできるものにできたらいいなと思います。やはり芦屋に住んでおられる方や、学芸員の方々が本当に心から自慢して自分たちの活動をアピールできるようにできたらいいと思います。

資料を見ると、ギャラリートークで4名や8名であるとか、その原因はギャラリートークのみだからです。どんなことがそこで提供されて、1回目より2回目聞きたい、3回目聞きたい、というふう

にワクワクするような内容の提示がないと、やはり人の心はつかめません。学芸員の方々が自信をもってやるようにして頂きたいと思います。

(養会長)

学芸員が3名しかいない中で、それにしてはバラエティのある展覧会をよくやっており、具体的に偏っていない傾向が出ています。これからもバラエティのある展覧会をすれば、ますますたくさんの方が来てくれると思います。具体のコレクションがあるというのは世界で芦屋はすごい評価があるわけですから、ぜひ、年に1回でもいいですから、具体の展覧会をやるということは必要だと思います。

(山口委員)

私も具体はやはり芦屋の宝だと思っています。グッゲンハイム美術館では25万人を超える人が入っています。資料や作品がどんどん海外に流出しつつあるので、これはやはり芦屋と兵庫で守っていかなければならないと思います。ただ、芦屋市立美術博物館でする展覧会のやり方は少し考えないといけないと思います。グッゲンハイム美術館では、すごく立体的なものが結構ありました。だから、難しいのでしょうけれども電気服だとか、いろいろな面白いものがあります。そういう絵画中心、平面中心ではなくて、立体的なものも入れていけば、もっと若い人も面白がってくると思います。確かに海外ですごくブームになっていますし、アメリカで3ヶ所でしたか、グッゲンハイム美術館と同時に3ヶ所でやっているんですね。それで、それぞれ人が入っている。日本でも去年、東京六本木の国立新美術館でありましたし、つい最近、大阪大学総合学術博物館でもありました。それも結構人が来ています。ですから、具体がいけないということは絶対にはないと思います。展示のやり方とPRの仕方、これさえやれば絶対に人は来ると思います。もっとPRすれば、海外の人も来るかもしれません。やはり具体は、「好き」や「嫌い」ではなくて、続けていかなければならないと思います。

(養会長)

やはり子ども達に教えていけないといけません。芦屋に住んでいて、こんな誇りのあるものは世界ではないわけですから。それと例えば、この間はグッゲンハイム美術館でした、今度はダラスの美術館で具体の大きな展覧会が企画されていますけれども、もちろん美術博物館にもたくさん借りにくるのですけれども、凱旋展、帰国展みたいな、こういう展覧会がグッゲンハイム美術館であって大変な人気がありました、というような展示をやっても面白いのではないかと思います。そういうタイトルでやると、惹きつけるようなものがあると思います。せっかく貸したわけですから、ぜひそれはやってほしいし、兵庫県立美術館にあるものも含めて凱旋展をしたらすごく人気があると思います。

いろいろ具体だけではなくて、浮世絵などいろんな展覧会をやっている、それで客をつかんできているわけですから、ぜひ、それは続けていただきたいと思います。そして、具体は美術博物館の中心になるんですから、これを隠すことはあり得ないわけです。ぜひ、具体の展覧会はやってほしい。

(事務局：長岡)

基本方針で具体からの脱却や偏りを見直すということが出ていますけれども、出来ていると私自身は思っています。具体が美術博物館の代表的、世界に誇る宝だと思いますが、その見せ方や、あるいは世界ではすごく評価されているのだけれども、市民にちゃんと伝わっていないことが問題だと思います。それは美術博物館の責任でもあるし、芦屋市の責任でもあるのですけれども、市民の方に分かっ

ただでいいないというところが一番問題だと思います。具体という言葉は皆さん多分ご存知だと思いますが、その面白さ、世界中を惹きつけている具体のどこが魅力なのかというところを全然分かっていただけていない、伝わっていないと思います。

(養会長)

そこは、小学生、中学生にもっと教えないといけません。

(事務局：長岡)

そこは問題だと思います。私ももちろん専門的に勉強しているわけでもないのでわからなかったんですけども、この前、美術博物館の展覧会での紹介で、具体の最初の展覧会で、箱に人が入っていて、コインを入れたら作家が描いた絵をそこから出していたというのを見ました。グッゲンハイム美術館では、それを再現したものを置いているというのを聞いて、それは楽しいと思いました。だから、そういうのも本当だったら出来れば良いのですが、費用がかけられませんから、なかなかできないのですけれども、そういういろんな発想の面白いことが本当はありながら、そういうものを全然紹介できていないのが課題です。これからは、小学生の時から芦屋にはこういう大切な世界に誇れるコレクションがありますとか、発祥の地ですよ、それはこういうものですよというのを知らせていけるような活動等があって、お客さんにも伝えていけるようなことができれば良いなと思っています。ただ、今やっただけしている展示はバランスよくいろいろ具体も含めながら他のものもやっていただいて、去年でしたら浮世絵もそうですし、今年も学習雑誌とか、そういういろんなところに年齢的にもターゲットを幅広く立ててバランスよくやっていただいていると思いますので、これをもう少し発展してやっていけばいいと考えているところです。

(養会長)

本当に具体を馬鹿にしたら、もう日本から具体がなくなります。今、何億円ですから、そんな値段を言ったら子どもならびっくりすると思う。そのぐらい世界で人気というか再発見されたわけです。吉原治良さんが人のマネをするなというのが具体ですから、あらゆる考えられないようなことを作家がする。パフォーマンスもしたし、白髪さんも体を吊って足で描くような世界では誰もやってないようなことをしてきたわけです。これが芦屋から出ているわけですから、やはり子ども達にもっと教えていく、それにはこの美術博物館で作品を見せながらギャラリートークか何かでやる必要があると思います。プライドをもたず、そうすることによって子どもも親も理解してくれると思います。さすがに日本人だと本当にクリエイティブだと。それで今世界で見直されているわけですから、ぜひそれは教育をしていく必要がある。ここから教育していかないと誰が発信するのですか。他の美術館は持っていないわけですから、これはこのまま放っておくと、今、本当、みなさん欲しいわけですから、どんどん世界へ流出してしまいます。ここにはすごいものがあるということを世界へ見せるためにも、年に1回はぜひ具体の展覧会をしてほしいと思います。

(井上委員)

私は基本方針が私たちの考えとは乖離がありますと言っているわけです。こんな基本方針をずっとおいておくのか。このようなまるで現代美術の偏りを見直すというのは、今の論議とはかけ離れているわけです。その辺をどうしますかと言っているのです。これは教育委員会の管轄ですね。こういった意見

があるから、基本方針については乖離があるということをはっきり把握しておいてもらわなければなりません。このままいったら、まるで悪者ですよ。この文書自体は、そんな偏見を持ってしまう。それを申し上げたいのです。

(養会長)

ありがとうございます。他に何かありますか。

(野村委員)

先ほどから小学校、中学校でも教育で具体をとということですが、私は今、精道中学校で具体は全く教えてないです。たまに案内がきた時には触れることがありますけれども、すべて触れているというわけではないのが現状です。では、他の小学校、中学校がどうかと言いましたら、実態はわかりません。例えば、10月3日に授業研究がありまして、美術は私の中学校なんです。そうすると、中学校の先生も図工専科の先生もだいたい集まる。そういうところで発信もできますが、美術博物館で色々な考え方をもちの方もいるでしょうから、私がこういうふうに協議会で話があったことを発信してもいいのであれば、その他の連絡などもできて、もう少し小学校と中学校でも具体というものを教材の中で取り入れることも可能になると思います。図工や美術の中で、研究の時にはそういうのを取り入れていこうということもできると思うのですが、だとしてもここでもう少し教育現場でどれくらい取り入れるのが理想なのかや、美術博物館の意向やレクチャーなど、県立美術館ではいつも新しい企画には教員のレクチャーがあり、また、子どもを呼んで、例えば日本画教室とかされたりしているんですけども、もう少し教員が美術博物館の方でレクチャーや学ぶところがないと、私だけでは教えることもできません。そのあたりの連携について、私はどうしていいのかわからない。もう少しそういうのがあれば、教育現場の方にも伝えていくことができます。

(養会長)

例えば、兵庫県立近代美術館で紙をずっとギャラリーに置いて、そこを突き抜けていく、そういうパフォーマンス、そういうことを子ども達に、例えばこういうのもアートなんだよということを知らせると、子ども達がすごく喜ぶと思います。

例えば教室でそういうこともあるし、例えば宙ずりになって絵を描いたり、それこそ50年代ですよ。だから世界が驚いているわけですから。そういうことをこの芦屋から発信したということをもっと教えるべきです。教育方針として芦屋市しかできないことじゃないですか。だから芦屋で学んだ子たちが、世界へ出ていった時にすごいと思います。学校でもこういうことを教えていたのだと、子どもたちが具体の作家を知っているというだけでも世界に出た時にすごい自信にもなるし、プライドにもなるので、教育委員会の中で、そういう話もぜひやってほしいです。

(山口委員)

今、話を聞いて思ったのですが、今は社会科というかわかりませんが、私たちの時代は社会科で郷土の歴史や郷土のことを習いましたが、一緒だと思います。美術も、具体というのは郷土の宝なので、それを教えるのは何の問題もないと思いますし、むしろ積極的に教えないといけないと思います。美術に根ざした郷土愛もあると思います。どこ出身、例えばここから大きくなって、いろんなところへ行っても芦屋にいたんだと。では、芦屋ってどんなところかと聞かれたら、具体があつて何があ

って全部言える。そういうプライドみたいなものを教育現場でつけていけないといけないと思います。小学校でも中学校でもそうですけれども、そういうのがどういうシステムになっているのかはわかりませんが、教育委員会からそういう指導要領とか現場の先生方の研究会でやっているのか知りませんが、少なくとも教育委員会からそういう指導において、郷土のことを教えるのは非常に大事だと思うし、そのことを教えるのに何の問題もないと思います。

(養会長)

いろいろご意見いただいてありがとうございます。また、それをぜひ、教育委員会、市の方で実現できるようにお願いします。

(事務局：中村)

今年度に入りまして特に議会の方でも芦屋らしさというものが注目されており、どのようにしていろんな芦屋らしさを出していくのかが議論されています。皆様からご意見いただいたことは、内容的には同じことだとお話を伺っておりました。今後、具体の意義を重く受け止めて、進めていけないと感じています。

(養会長)

ぜひお願いします。

(事務局：中村)

これを含めて美術博物館の方へ提案していきたいと思います。そういう意味合いで美術の中の一つのもの、芸術の一つというだけではなくて、芦屋として、芦屋らしさの中でこの具体があるんだという中で、芦屋としては自慢できるものだと思います。

また、子ども達を招いて、そういう楽しさ、面白さとか、いろんなふういろんな角度で見ていったらいいんだと提案していただいたり、そういう面白みを工夫して伝えていきたいと思います。

(養会長)

これからもよろしくお願いします。せっかく皆さん、美術博物館のことを思って、協力してくれるわけですから。

どうも本当にありがとうございました。